

2021年10月13日

株式会社アダストリア

2022年2月期 上期決算 FAQ

9月30日(木)の2022年2月期 上期決算発表後、メディア、アナリスト、機関投資家のみなさまからいただいた主なご質問をまとめました。

■業績について

Q.上期の着地と業績予想のギャップについて、教えて欲しい。

A.4月5日に開示した通期業績予想には、その後に発令された緊急事態宣言は織り込んでおらず、新型コロナウイルスの影響が想定よりも長引いたことを主因に、上期の売上は期初予想を下回って推移しました。利益面でも業績予想を下回ってはいるものの、期初計画においても上半期は新型コロナウイルスの影響が一定程度残る前提としており、上期の貢献は相対的に小さく、下期に向けて回復を見込んでいました。また、売上の減少に応じた販管費のコントロールも奏功し、上期においても一定の利益を確保することができました。以上を勘案し、現時点では通期業績予想を据え置きとしております。

■販管費について

Q.販管費コントロールの詳細について知りたい。

A.上期は、主に売上の減少に伴う家賃の低減や、店舗運営の効率化による人件費の減少が寄与し、期初計画よりも販管費を低く抑えることができました。一方、今後の成長に向けた自社EC(ドットエスティ)のプロモーションや、自社ECサイトの機能強化などは、計画どおりに実施いたしました。新規ブランドのローンチに伴う費用は、新型コロナウイルスの影響を勘案し一部を延期したことで、計画比で減少しております。

■在庫水準について

Q.在庫が前年比に比べて増加しているが、問題ないか。

A. 昨年は新型コロナウイルスの影響を勘案し、在庫を極力持たない方針で運営していたの

に対し、今年は下期の回復を見据えて秋冬物を確保しているため、前年比では増加しましたが、平年並みの水準です。また一時的な要因として、8月緊急事態宣言の延長と天候不順の影響で、晩夏ものの在庫が一部残りましたが、9月以降にECサイトで消化を進め、適正な水準を回復しております。

■期初出店計画の修正について

Q.期初の出退店計画数を修正した理由を知りたい。

A.新型コロナウイルスの影響が期初想定を超えて長引き、人流の回復が遅れる中、特に新規ブランドを中心に、出店戦略を検証するためのデータが不足しております。このような状況を勘案し、出店の判断に慎重を期すため、計画を修正いたしました。既存ブランドについては、積極出店の方針は原則的に変更しておらず、優良な機会があれば、計画通りに出店してまいります。

■ECについて

Q.ECメンテナンスによって、機能面で改善できたことを知りたい。

A.9月末に実施した自社ECのメンテナンスでは、キャパシティの拡充を目途とし、クラウド環境への移行を実施しました。これにより、ページの読み込み速度やレスポンスタイムが改善し、アクセス集中時によるサーバーダウンリスクも大幅に軽減されます。

■海外について

Q.海外各国別の業績状況について知りたい。

A.海外事業の連結対象期間は、1月～6月です。香港では、不採算店舗の閉鎖や家賃の減免措置で、増収増益となりました。中国では、イベントの実施や上海2号店の売上が寄与し、売上が継続的に成長しました。台湾は、第2四半期に新型コロナウイルスの再拡大による影響があったものの、第1四半期の売上が寄与し、上期では黒字を維持しました。米国ではワクチンの普及と規制緩和により、実店舗や卸売事業への需要が回復し、黒字に転換しました。

以上